

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

所属: _____ 名前: _____

5 を法として, 自分の学籍番号と合同な問題番号を解答せよ.

(ex. 111207 の学生は, 2, 7, 12, 17, 22, 27 番の問題を解く.)

1. 基本ベクトル i, j, k を三辺として立方体を作り, 原点から出る三つの面对角線 (面の上の対角線) を, 原点を始点とするベクトルと考えて, それらの内積および外積を求めよ. また, それらのなす角を求めよ.
2. 四点 $4i + j + k, -j - k, 3i + 9j + 4k, 4(-i + j + k)$ が同一平面上にあることを証明せよ.
3. 四面体の頂点の位置ベクトルを a, b, c, d とすれば, その体積は次の式で与えられることを証明せよ. ただし, $[\]$ はグラスマンの記号である.

$$\frac{1}{6}[a - d, b - d, c - d], \text{ あるいは } \frac{1}{6}\{[abc] - [abd] + [acd] - [bcd]\}$$
4. 原点を始点とする三つのベクトル a, b, c は一つの平面を定める. 原点からその平面に至る距離を求めよ. また, 原点から a, b の終点を結ぶ直線に至る距離を求めよ.
5. e を単位ベクトル, A を任意のベクトルとするとき, 以下の関係式を証明せよ.

$$A = (A \cdot e)e + e \times (A \times e)$$

6. 次の等式を証明せよ.

$$A \cdot \{B \times (C \times D)\} = (A \times B) \cdot (C \times D)$$

7. 次の等式を証明せよ. ただし, $[\]$ はグラスマンの記号である.

$$(A \times B) \times (C \times D) = [ABD]C - [ABC]D = [ACD]B - [BCD]A$$

8. 次の等式を証明せよ. ただし, $[\]$ はグラスマンの記号である.

$$\begin{aligned} [\mathbf{a} \times \mathbf{b}, \mathbf{c} \times \mathbf{d}, \mathbf{e} \times \mathbf{f}] &= [\mathbf{abe}][\mathbf{fcd}] - [\mathbf{abf}][\mathbf{ecd}] \\ &= [\mathbf{abd}][\mathbf{cef}] - [\mathbf{abc}][\mathbf{def}] \\ &= [\mathbf{cda}][\mathbf{bef}] - [\mathbf{cdb}][\mathbf{aef}] \end{aligned}$$

9. 次の式を t で微分せよ. ただし, \mathbf{r} は t の関数, \mathbf{a} は定ベクトルとする.

$$\frac{\mathbf{r} + \mathbf{a}}{r^2 + a^2}$$

10. 次の式を t で微分せよ. ただし, \mathbf{r} は t の関数, \mathbf{a} は定ベクトルとする.

$$\frac{\mathbf{r} \times \mathbf{a}}{\mathbf{r} \cdot \mathbf{a}}$$

11. n を定数, \mathbf{a}, \mathbf{b} を定ベクトルとするとき, $\mathbf{r} = (\cos nt)\mathbf{a} + (\sin nt)\mathbf{b}$ ならば, 次の式が成立することを証明せよ.

$$\frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2} + n^2\mathbf{r} = 0$$

12. n を定数, \mathbf{a}, \mathbf{b} を定ベクトルとするとき, $\mathbf{r} = (\cos nt)\mathbf{a} + (\sin nt)\mathbf{b}$ ならば, 次の式が成立することを証明せよ.

$$\mathbf{r} \times \frac{d\mathbf{r}}{dt} = n\mathbf{a} \times \mathbf{b}$$

13. n を定数, \mathbf{a}, \mathbf{b} を定ベクトルとするとき, $\mathbf{r} = (\cos nt)\mathbf{a} + (\sin nt)\mathbf{b}$ ならば, 次の式が成立することを証明せよ. ただし, $[\]$ はグラスマンの記号である.

$$\left[\mathbf{r} \frac{d\mathbf{r}}{dt} \frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2} \right] = 0$$

14. n を定数, \mathbf{a}, \mathbf{b} を定ベクトルとするとき, $\mathbf{r} = e^{nt}\mathbf{a} + e^{-nt}\mathbf{b}$ ならば, 次の式が成立することを証明せよ.

$$\frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2} - n^2\mathbf{r} = 0$$

15. 次式を満足する $r(t)$ を求めよ. ただし, $r(0) = 0$, $dr/dt(0) = 0$, さらに a, b を定ベクトルとする.

$$\frac{d^2 r}{dt^2} = at + b$$

16. 次の等式を証明せよ.

$$(\mathbf{A} \cdot \nabla)\mathbf{A} = \frac{1}{2}\nabla A^2 - \mathbf{A} \times (\nabla \times \mathbf{A})$$

17. a, b, c を定ベクトル, r を位置ベクトルとするとき, 次式を証明せよ.

$$\nabla\{(a \cdot r)(b \cdot r)(c \cdot r)\} = (b \cdot r)(c \cdot r)a + (c \cdot r)(a \cdot r)b + (a \cdot r)(b \cdot r)c$$

18. $u(x, y, z), v(x, y, z)$ において, $f(u, v) = 0$ ならば, $\nabla u \times \nabla v = 0$ であることを証明せよ.

19. $u(x, y, z), v(x, y, z), w(x, y, z)$ において, $f(u, v, w) = 0$ ならば, $[\nabla u \nabla v \nabla w] = 0$ であることを証明せよ. ただし, $[]$ はグラスマンの記号である.

20. $u(x, y, z)$ の関数を $f(u)$ とするとき, 次式を証明せよ.

$$f(u)\nabla u = \nabla \int f(u)du$$

21. 次式を証明せよ. ただし, $[]$ はグラスマンの記号である. ($(a \cdot \nabla), (b \cdot \nabla)$ はスカラー演算子であり, v に作用する)

$$a \cdot (b \cdot \nabla)v - b \cdot (a \cdot \nabla)v = (b \times c) \cdot \text{rot}v = [b a \text{rot}v]$$

22. $v = \nabla\varphi$ ならば, 次式が成立することを証明せよ.

$$a \cdot (b \cdot \nabla)v = b \cdot (a \cdot \nabla)v$$

23. a が一定なベクトルならば, 次式が成立することを証明せよ.

$$a \cdot (b \cdot \nabla)v = b \cdot \nabla(a \cdot v)$$

24. 次式を証明せよ.

$$\operatorname{rot} \operatorname{rot} \operatorname{rot} \mathbf{A} = -\nabla^2 \operatorname{rot} \mathbf{A}$$

25. $\operatorname{div} \mathbf{F} = 0$ ならば, 次式を証明せよ.

$$\operatorname{rot} \operatorname{rot} \operatorname{rot} \operatorname{rot} \mathbf{F} = \nabla^2 \nabla^2 \mathbf{F}$$

26. 閉曲面 S によって囲まれた領域 V , 曲面の単位法線ベクトル \mathbf{n} とすれば, 次式が成立することを証明せよ.

$$\int_S (\nabla \varphi \times \mathbf{A}) \cdot \mathbf{n} dS = - \int_V \nabla \varphi \cdot \operatorname{rot} \mathbf{A} dV$$

27. 閉曲面 S によって囲まれた領域 V , 曲面の単位法線ベクトル \mathbf{n} とすれば, 次式が成立することを証明せよ.

$$- \int_V \mathbf{r} dV = \frac{1}{2} \int_S r^2 \mathbf{n} dS$$

28. 閉曲線に関して, 次式を証明せよ.

$$\oint \varphi \nabla \psi \cdot d\mathbf{r} = - \oint \psi \nabla \varphi \cdot d\mathbf{r}$$

29. $A(0, 1, 0)$ から $B(2, 0, 0)$ に至る次の各曲線に関する $f = x^2 - y^2$ の線積分の値を求めよ.

(i) 直線 $x + 2y = 2$

(ii) AD, DB ただし, $D(1, 1, 0)$

(iii) AO, OB ただし, O は原点

30. 曲面 $z = 2 - x^2 - y^2$ ($x \geq 0, y \geq 0$) に対応する部分を S とするとき, 曲面 S に関する $f = x^2 + y^2$ の面積分の値を求めよ.